

# PTA 研修便り 第6号

令和元年 10月 25日 発行

令和元年 10月 3日（木）、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構「大阪障害者職業センター」(大阪メトロ堺筋線堺筋本町駅下車すぐ)の見学会をおこないました。当日の参加者は、教員、保護者合わせて 21 名でした。特に 1 年生の保護者に多くご参加いただき、支援機関についてのご理解を深めていただける機会になりました。

センターの北島様に、センターの業務内容やその他の支援機関との関わり、私たちの子どもにとって就労に際して必要なことなどを、1 時間以上にわたって丁寧に分かりやすく説明していただきました。質疑応答のあと、職業準備支援の施設の見学もさせていただき、支援の内容を具体的にイメージすることができました。

## 見学会の報告

### —業務内容—

大阪障害者職業センターとは、ハローワークとの密接な連携のもと、障害者の就業に関する専門的な職業リハビリテーションを短期集中的に提供する施設で、大阪府には大阪府中央区と堺市（南大阪支所）に設置されています。センターの利用は無料です。



職業センターにおける支援の内容は、

①職業相談・職業評価 ②職業準備支援 ③ジョブコーチ支援に大別され、④重度知的障害者判定もおこなっています。

①職業相談・職業評価（センターの混み具合により待つこともあるが、概ね 1 ヶ月以内に実施）：  
本人や支援者の依頼により、聞き取り、各種ペーパーテスト、各種作業検査をおこない、本人の得意なことやにがてなこと、就職活動に向けて既に準備できていることやこれから準備が必要な点を把握し、自分の特性についての本人の気づきを助けて今後の方向性を整理し、関わりのある支援機関との役割分担を明確にする。

②職業準備支援：センター内の施設に通い、15 名ほどでいろいろな作業をおこなう中で、職業上必要なスキルを身につける。訓練期間は最長 12 週間で受講内容、期間、時間等は個々に設定。終了後はハローワークを通じた就職を目標とするが、必要に応じて就労移行支援等を利用し、さらに長期間の訓練をおこなう。

③ジョブコーチ支援：本人と会社の同意にもとづき、職場にジョブコーチが出向いて一緒に入り、実際の仕事の様子を把握したうえで、本人と会社の双方の話を聞いて具体的な支援を提案し、仕事がうまくできるように調整する。集中的に訪問する期間は2～3ヶ月が標準で、必要に応じてフォローアップをおこなう（長期的な支援は就業・生活支援センターもおこなう）。ひとつの会社について原則1度の利用だが、別の会社の場合は再度利用することができる。

④重度知的障害者判定：手帳の判定が重度でない人（B1、B2判定の人）も、職業的な重度の判定を受けることにより、雇用対策上重度の人と同じ扱いとなり、センターではその判定をおこなう。手帳の判定が変わるものではないので、就労内定後に本人の依頼により受けることがある。本人にとってもより手厚い支援が受けられるなどのメリットが見込まれる。

## —卒業後に相談・利用できる支援機関について—

たまがわでは3年生になったら卒業までに、全ての生徒がハローワークと障害者就業・生活支援センター（就ポツさん）に登録します。就ポツさんと職業センターの業務は似ていますが、就ポツさんは長期にわたり就業だけでなく生活全般についての相談にのってくれ支援してくれる所、職業センターは必要と要請があれば、就業について短期集中的に支援をおこない関わってくれる所です。そのため、その他のさまざまな支援機関（ハローワーク、障害者職業能力開発校、就労移行支援事業所など）と連携して支援をおこないます。就労への道は様々なので、本人に合ったペースで就労に向けた支援を受けることができます。

## —就職するために必要なこと—

在学中に身につけるよう頑張ってください。コミュニケーションがにがてでも、できることを増やしましょう！

### \*挨拶

- ・自分から進んで挨拶できることが大切です
- ・初めての人にも自分から挨拶できますか
- ・相手に聞こえる声でできますか
- ・相手の方を見てあいさつできますか

<家庭で普段からできること>

- ・身近な人に対して、自分から声を出して挨拶する習慣をつけましょう
- ・話すことがにがてな場合は「おはようございます」の1つから練習しましょう
- ・意識して挨拶をする機会を作ることが大切です

### \*身だしなみ

- ・同僚やお客様に不快感を与えないことが大切です
- ・お風呂に入って清潔にしていますか
- ・服装は汚れていませんか
- ・つめ、ひげはきれいにしていますか



<家庭で普段からできること>

- ・臭いや爪の汚れ、ひげのそり残しについて、自分でチェックできるようにしましょう  
鏡を見せたり、写真を撮ったりしてチェックするところを教えてあげてください
- ・服が汚れていないか自分でチェックし、着替えることを習慣付けられるよう、促しましょう
- ・TPO に配慮する意識を持たせましょう

\***時間を守る**

- ・始業時間の 10 分前には出勤できるように
- ・夜中までテレビやゲームをしていませんか
- ・目覚ましをかけて自分から起きることはできますか
- ・時計を見て、外出や帰宅などの行動ができますか

\***責任感**

- ・最後までやり抜くことが大切です（普段からやり抜くことに慣れておきましょう）
- ・家事手伝いをしましょう
- ・簡単なことでもいいからすることが大切です

\***長く働き続けるために**

- ・就職後は、職場という環境で生活していくこととなります
- ・社会人は、働いて給料をいただくため、その分責任が出てきます
- ・時として、職場に慣れず不適応を示してしまうこともあります
- ・働くための動機付けが必要です  
ほしいものを買いたい、旅行に行きたい、家族の一員として生活費を家庭に入れる、家族も本人を頼りにする・・・など

## —卒業後の会社とのつきあい方—

- ・必要な時に連絡が取れる体制をつくる、確認しておく
- ・会社の方は家族の方がどう思っているのかを知りたいので、会社との連絡帳、会社訪問、電話連絡などを必要に応じておこなえるようにしておく
- ・会社と直接連絡が取れない時は支援機関に相談する

## —みんなで支える—

ご家庭の支援はとても重要ですが、それだけでは負担になってしまいます。地域の社会資源（さまざまな支援機関）をうまく使って、みんなで支えることが重要だといえます。



## みなさんの感想



◆ハンデのある子どもたちが長く働き社会で生きていくためには、さまざまな支援機関の支援が必要ですが、さまざまにあるだけに、仕組みや内容を把握するのは難しいと思っていました。在学中の見学会に参加し、いくつかの支援機関を実際に訪れることができ、どこでも丁寧に説明していただいたことは得難い経験でした。ありがとうございました。

◆就労後の支援について、全くみえていなかったものが少しみえたので良かったです。今後も就労に関する説明会などがあれば参加したいです。

◆現役で学校から就職できるのが一番良いと考えていますが、卒業後のよりどころとして利用できる場所だと思いました。

◆学生の間は支援が手厚く安心でしたが、卒業後の相談先や利用できる支援などについての知識がなく、不安がありました。今回見学して知ることができ、少し安心できました。たまたがわの生徒は、今回の職業センターよりも生活面のサポートも必要になることが多いと思うので、就ポツさんの方が身近な相談先になるかと思いますが、在学中に就ポツさんとの面談もあると聞いてとてもありがたく安心できました。将来の就労に向けて、日常生活の力や健康管理の力など土台部分がしっかりしていないと継続して働くことが難しくなり、支援機関も支援しづらい部分になるので、家庭の方でお願いしたい、と話されていたのが印象的でした。改めて、家ででの日常生活の大切さを実感したので、就労に向けて意識していこうと思いました。

◆今までよくわからなかった支援の内容や仕組みを知ることができて良かったです。1回ではわからないので、また機会があれば参加したいです。大阪に2ヶ所しかないのは少ないと思います。今から親も社会に出すために家庭でできることに気をつけて取り組んでいきたいと思いました。将来のために知りたいことがなかなか知ることができない中、PTAで学ぶことができて良かったと改めて思いました。

◆今回の見学で、重度知的障害者判定というのを初めて知りました。認定されている人を雇うと助成金が増えるので有利であるというお話で、時期がきたら受けさせたいと思いました。学校在学中に利用できるサービスであるということも教えていただき、参加して良かったです。本人次第ですが、いろいろなところでいろいろな支援があり、上手に利用して本人にプラスになるようにしたいです。

◆就職に向けて家でできることを心がけてやっていきたいと思いました。

◆まだ2年生で卒業後はイメージしにくいところがありますが、具体的に説明を受け、就職後もいろいろなかたちで支援、サポートをしてくださる場所があることを知り、心強く感じました。

◆1年生で初めての参加でしたがすごくわかりやすく勉強になりました。日々の生活、もう少し厳しくしてもいいかなとも思いましたが、少しずつゆっくり成長してほしいとも思いました。

◆◆◆みなさんどうもありがとうございました◆◆◆